

是より先加越の闘争多年に互つたが、貞景は加賀一揆の上國に交通するを遮断せんと欲し、海陸の途を塞いだ。將軍足利義隆之を憂へ、同十五年四月十九日伊勢守貞陸を越前に遣はして孝景に諭さしめた。孝景乃ち幕便を迎へ、旨を奉じて警戒を解いたが、兩國の媾和は尙成立しなかつた。次いで享祿四年加賀の大小一揆が相争つた時、大一揆は援を越前に請うたから、孝景は之を誥し、八月十九日堀江三郎景忠を江沼郡管生に陣せしめ、廿二日朝倉宗滴も亦その地に入り、十月廿六日以降今湊川附近に交戦したが、廿九日大一揆の援軍たる能登・越中勢が敗北したるを以て、十一月二日兵を収めて越前に退いた。孝景の時代にはこの後加賀との交渉がなく、而して孝景は天文十七年二月に歿した。

アサクラチカヨシ 浅倉集義 ↓フクラカチカヨシ 福岡集義。

アサクラヨシカゲ 浅倉義景 (一)弘治の役一孝景の子。天文十七年二月十六歳を以て家を嗣ぎ、宗滴之が輔佐となつた。弘治元年宗滴、加賀の土民を膺懲して父祖の仇を殲さんことを義景に請うて容れられた。是に於いて七十九歳の老将は、七月廿一日金津に、廿二日細呂木に、廿三日加賀の橋に進んだが、一揆は津葉・南郷・千足城に據守したから、兵を三分して之に向かはしめた。朝倉玄蕃允景運先づ津葉城に迫り之を陥れるや、南郷城の一揆も畏怖して、その將黒瀬掃部は山中に、藤丸新助は横北に走つた。千足城には菅波・尾坂の土兵と共に、湯山津の大助・振橋の帯刀等があつて、頗る頑強であつたが、これにも猛撃を加へて、終に一日の中に三堡を奪ひ得

た。是より先堀江中務丞景忠は、熊坂・奥屋に放火し、山路から大聖寺の搦手に向かつて、恰も敵の多数が退却するを望んだが、距離遠くして追撃するを得なかつた。此の日總帥宗滴は猫地山に在つたが、翌廿四日には進んで敷地山に營し、朝倉玄蕃允・福岡三郎左衛門は菅生口に、藏谷衆は大聖寺に、武曾・深町は狹生に陣を張つた。之に對して一揆方は邀撃の準備をしてゐたが、越軍尙十餘日も進まなかつたので、之を兵數の寡少なるに因ると解し、八月十三日前法主證如の忌日を期し、自ら攻撃を加へた。この時敷地の大手には、石川郡の和田・錦木・洲崎・窪田・河合・玄忍十人衆、右翼濱手には超勝寺を主將とする能美郡一揆、管生には河北郡の小原・高坂・山一番・里一番の徒、右・橋口には江沼郡の黒瀬・熊坂・振橋・尾坂・藤丸・柴山衆等を部署したが、一揆等利を失つて潰走し、越軍の得たる首級六百八十餘であつた。かくて越軍は大捷を得たが、不幸にして宗滴は十五日の夜に入つて病を發した。義景之を憂へ、朝倉右兵衛尉景高を遣はして宗滴に代り、本營を敷地の岡に置かしめ、山崎新左衛門吉家・印牧丹後守・佐佐布光林坊・大野勢等各陣を張つて警戒を嚴にした。九月八日宗滴歿し、その中旬には景高が那谷・粟津の民屋を焚掠した。十月山崎吉家は安宅を侵略せんと欲して進んだが、河水多くして涉ることを得なかつた。この後越軍の滯陣尙數月に及んだが、弘治二年三月廿二日一揆が海路越前の浦々を劫かしたとある外戦闘はなかつた。此の月廿九日將軍足利義輝が教書を發して兩國の媾和を懇願し、景高は四月一日兵を率ゐて一條城に退いたか

ら、加賀からも亦四郡の一揆總代官として窪田肥前守を派し、義景の館に於いて締交した。反古裏に、本願寺の坊官下間駿河法橋頼言が加州に下り、越前との和談を成就せしめたとあるも此の時の事である。

(二)永祿の役一永祿七年九月朔日朝倉式部大輔景鏡は、同右兵衛尉景隆と共に、その兵を率ゐて加賀に出陣した。十二日義景も亦兵を進め、十七日日本折・小松兩城を攻陥し、十九日今湊川の涯に至つて火を放ち、廿五日を以て越前に凱旋した。

(三)加越媾和一永祿十年七月廿一日、當時流浪中であつた足利義昭は、敦賀を出て義景の一乗城に憑り、次いで加越に諭して和議を講ぜしめんとした。これ加賀一揆が朝倉氏の背後を窺ふ間は、朝倉氏の助力によつて上洛せんとする義昭の計畫を遂行するを得ぬからであつた。是に於いて二國の和議成り、十二月十二日一揆の將杉浦氏の子息を質として一乗の阿波加に至らしめ、十五日一揆方の城塞松山、越前方の堡壘黒谷・檜ノ屋・大聖寺を燒毀し、以て和平の事を行つた。

アサダ 浅田 河北郡井上庄に屬する部落。

アサノ 浅野 河北郡小坂庄に屬する部落。浅野中島村等と共に、もとの附近は浅野と稱する荒野であつたのであらう。官地論長享二年に『陣取伏見山科浅野大衆目』と見える。浅野の名義は浅い野だとも、麻を生じた野だともいふが、何れも確かでない。浅野川の名稱はこれに基づくものである。

アサノイモジ 浅野鑄物師 ↓タケムラウヂ 武村氏。

アサノオンボウマチ 浅野隱坊町 金澤の舊町名。藩初以來藤内等の居住所で、浅野非人町と接し、河北郡浅野中島の村地であつた。明治四年八月此の名稱を廢し、非人町と共に浅野新町と改稱し、市内に屬せしめた。

アサノカクバ 浅野角場 河北郡浅野に在つた射的場。越登賀三州志來因概覽に、兩角場は増泉と浅野で、前者は元祿二年、後者は同三年に曹請が成つた。これは異風裁許半田惣兵衛・奥村瀧兵衛の請願によつて作られたのであると見える。

アサノガハ 浅野川 源を石川郡順尾山の西北より發して、河内谷を過ぎ、河北郡石黒又に至り、横谷山より發する板谷川と合し、平下に至り、大菱池山に發する醫王山川を合し、銚子口に至り平等山より出る小豆澤川を受け、金澤市街の北部を貫いた後、東蚊爪を経て河北潟に入る。流程三五里。この河名は早く三宮古記に見える。金城三河考が浅野川の古名を澤田川といふと記してゐるのは、殘簡風土記が偽書なることを知らずして引用した誤である。この川を泉水・墨水又は麻水などいふは、詩賦を弄するもの、戯れである。

アサノガハイナリシヤ 浅野川稻荷社 石川郡久安に富樫家明が居館した頃、稻荷明神をその邸に勧請し、修験者天道院に奉仕せしめたが、後之を金澤惣構堀の稻荷橋の社地に轉じ、元和二年更に今の並木町に移したといひ、天道院は後に天道寺と改めた。社記には、久安にも舊社があつて、天道寺が兼動したと

し、並木町遷座を慶安四年八月としてゐる。